

令和6年度 家庭科 研究のまとめ

前田 愛友

1 家庭科本来の魅力に迫るための教師の資質能力について

(1) 家庭科が考える「教師の資質能力」の具体

これまでの研究をとおり「家庭科本来の魅力に迫るための教師の資質能力」の内容を授業実践の検証結果をもとに吟味した結果を以下に示す。

資質能力	家庭科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	・生徒の実態や学習内容を踏まえ、つけたい力を明確化した目標を設定する視点 ・実生活に関わる問題を取り入れ、単元を通した生徒の学びのつながりを踏まえて授業構想を行う視点 ・近年の問題を取り上げ、自分とのつながりを考え、今・未来の私たちの生活につなげる視点
授業実践力	・生徒の実態に合わせて、臨機応変に授業を行う視点 ・対話的な授業を行い、生徒の発言から学びを深めていく視点 ・実際に体験・作業をしたり、パワーポイントや実物を用意して実際に見たりすることで更に理解を深めていく授業を行う視点
授業分析・評価力	・生徒の実態を分析・評価し、自身の実践を改善する視点 ・生徒の実態を分析・評価し、形成的評価を行う視点

① 授業構想力について

授業構想力では、「生徒の実態や学習内容を踏まえ、つけたい力を明確化した目標を設定する視点」、「実生活に関わる問題を取り入れ、単元を通した生徒の学びのつながりを踏まえて授業構想を行う視点」、「近年の問題を取り上げ、自分とのつながりを考え、今・未来の私たちの生活につなげる視点」を設定した。

「生徒の実態や学習内容を踏まえ、つけたい力を明確化した目標を設定する視点」では目標を明確化することで、生徒がこの授業の中の学びや活動に意味をもって考えることができる。実際に今年度授業をしていく中で明確に目標を最初に提示しておく、振り返りでも目標を踏まえた自分の姿についてよく書くことができていた。「実生活に関わる問題を取り入れ、単元を通した生徒の学びのつながりを踏まえて授業構想を行う視点」、「近年の問題を取り上げ、自分とのつながりを考え、今・未来の私たちの生活につなげる視点」では、家庭科は生活に関わる教科であることから、いかに授業後に生徒たちが実生活の中で生かせるかというのを大切にしている。そのことから実生活の例や単元ごとのつながりを持たせることによって、家庭科で習うすべて分野がつながっている、そして学校で習ったことが学校だけでなく生活にもつながっているということを感じることができる。

② 授業実践力について

授業実践力では、「生徒の実態に合わせて、臨機応変に授業を行う視点」、「対話的な授業を行い、生徒の発言から学びを深めていく視点」、「実際に体験・作業をしたり、パワーポイントや実物を用意して実際に見たりすることで更に理解を深めていく授業を行う視点」を設定した。

「生徒の実態に合わせて、臨機応変に授業を行う視点」、「対話的な授業を行い、生徒の発言から学びを深めていく視点」では、同じことを伝えていても生徒が違えば理解度も変わっていくため、今日の前にいる生徒の様子、環境をしっかりと見て授業をしていく必要がある。「実際に体験・作業をしたり、パワーポイントや実物を用意して実際に見たりすることで更に理解を深めていく授業を行う視点」では、実際にもの示したり、写真を見せたりするなど何をしたらよいのかということを視覚的に示すことによって生徒の到達度が違っていくことが授業をしていく中で感じる事ができた。

③ 授業分析・評価力について

授業分析・評価力では、「生徒の実態を分析・評価し、自身の実践を改善する視点」、「生徒の実態を分析・評価し、形成的評価を行う視点」を設定した。「生徒の実態を分析・評価し、自身の実践を改善する視点」では、生徒の実態によって変えることが生徒の理解度にもつながるため授業実践力で必要であるが、教師自身をさらに高めていくためにも必要であると考えている。また、「生徒の実態を分析・評価し、自身の実践を改善する視点」は、よりよい授業を行っていくうえで、授業をやりっぱなしにせず次の授業につなげていくことが大切である。

(2) 家庭科の特性に応じた見取りの方法について

本研究で、授業構想を行う際には、逆向き設計論(主題説明参照)に基づき、家庭科本来の魅力を踏まえた目標を達成することができた生徒の具体的な姿を想定した(授業最後の振り返りで見取りを行う)。次に、その姿により近づくように生徒の違いや発達段階を踏まえながら授業の展開(グループワーク活動で見取りを行う)を考えた。その中で今回の「家庭科本来の魅力に迫るための教師の資質能力」は何なのかということを分析した。

(3) 授業公開で見取った児童・生徒の姿の例

資質能力	児童・生徒の姿	手立て
授業構想力	目標を明確化することにより、この授業の中で目標を意識して取り組もうとする姿が見られた。 普段の生活を振り返りながら考えることができていた。	・目標を明確化して提示した。 ・説明時に実生活の例を挙げながら説明をしていった。
授業実践力	タブレットで調べたことをそのまま書いていた生徒やかけていない生徒がいた。	・知識を入れる時間が少なかったため、実生活と結び付けて考えられるような活動を入れていく必要がある。
授業分析・評価力	授業を通して考えたこと、疑問に思ったことなど自分の考えを書くことができていた。	・今日の学びを実生活と結び付け、具体的に振り返りを書かせるようにした。

2 研究の成果と課題

成 果	○実生活と結び付けたポスターを制作することができていた。 ○他者の意見を聞きながら作業することができていた。
課 題	●タブレット端末を使用することにより，幅は広がるが，情報が多すぎることによって目標から外れてしまうことがあるため工夫をしていく必要がある。 ●調べたことをそのままポスターにする生徒もいたため，生徒自身が考えやすいように授業の中で知識をしっかりと入れていくような授業展開にしていく必要がある。